

What's ポロネーズ?



2010 年度国立音楽大学 音楽研究専修研究発表会
専門ゼミ I II (音楽学研究コース、音楽情報・社会コース)

●図書館テーマ展示●

期間：2010年11月8日～12月10日

展示場所：図書館ブラウジングルーム・AV資料室

What's ポロネーズ?

2010年度国立音楽大学 音楽研究専修研究発表会
専門ゼミ (音楽学研究コース、音楽情報・社会コース)

研究発表会

日時：2010年11月26日(金) 16時30分

場所：小ホール

「What's ポロネーズ?」.....

皆さんはこの問いに、何と答えますか?こんな漠然とした問いでは困惑してしまうかもしれませんね。では、ポロネーズにどのようなイメージをお持ちですか?「タンタカ タッタッタッ」というあの特徴的なリズムを伴った、勇壮で華やかなポーランド舞曲、といったところではないでしょうか。特に、ショパンのポロネーズが真っ先に思い浮かぶという方も多いかもしれません。

しかし、今回私たちはポロネーズの歴史を辿っていくうちに、そのような「ポロネーズ」のイメージを覆す知られざる姿に出会ったのです。

私たちはそこに焦点を当て、あらゆる視点から「ポロネーズとは何か」という問いにアプローチしてきました。その全貌は来る研究発表会でご披露するとして、ここではその一部をご紹介しますと思います。

ポロネーズってどんなもの?

ポロネーズは一般的に器楽作品として広く知られていますが、元々はどのような踊りだったのでしょうか。

ブリタニカ国際大百科を引いてみると、「宮廷の儀式や戦士の凱進行進から発達した集団舞踏で、...のちには一般の人々の婚礼の際にも演奏され、踊られるようになった」とあります。しかし、世界大百科事典には、「...農民の歌や踊りに起源をもち、農民から小士族へ、次いで貴族や王の宮廷にまで広まったと思われる。宮廷のポロネーズは勇壮で華麗な器楽として発展した」と記されています。

実は、このようにポロネーズの起源や発展については諸説あり、一概に言うことはできません。しかし、宮廷で踊られたポロネーズ、農民の間で踊られたポロネーズ、器楽作品としてのポロネーズ、いずれも確かに「ポロネーズ」の姿なのです。

ポロネーズの歴史は深いので、詳しい内容は研究発表時のお楽しみとさせていただきますが、実はあの「タンタカ タッタッタッ」という特徴的なリズムでさえ、楽曲の中で確立されたのは18世紀になってからのことです。しかし、ポロネーズは「ポロネーズ」として姿を現す以前から、ポーランド各地で踊られていました。そのようにして、ポーランドの人々の中に脈々と生き続けてきたのです。言わば、ポーランドの民族性の象徴と言えるかもしれません。

つまり、「ポロネーズ」の持ついくつもの顔は、ポーランドの民族性を反映した「ポーランド舞曲」という一つの輪として繋がっているのです。

ポーランドの民族の生き写し

では、具体的にポロネーズには、ポーランドの民族性とどのような結びつきがあるのでしょうか？
ポーランドでは17世紀以降、貴族間の争い、近隣諸国による内政干渉、戦乱が相次ぎました。そして18世紀後半、ロシア、プロイセン、オーストリアからの、3度にわたる国家の分割を受け、ポーランド国民は祖国を失ったのです。以後、ポーランドの人々は、苦難と挫折を味わいながらも、祖国への誇りを忘れず、その思いは音楽へと強く反映されました。この時代に生きたショパンのポロネーズ作品には、独特の勇壮なリズムや、劇的で華麗な、でもどこか郷愁を帯びた響きが見られます。まさに、ポロネーズとは彼らの精神の生き写しだったのかもしれない。

しかし、器楽作品としての初期のポロネーズには、このようなポーランドの民族性とはあまり結びつきの強くないものもあります。

様々なポロネーズ

そもそも、「ポロネーズ」と題された器楽作品はいつ頃から現れたのでしょうか。

印刷技術の進んだドイツのニュルンベルクで、1544年に出版されたリュート曲集の中に「Der POLNISCH TANZ (ポーランドのダンス)」という曲が含まれています。しかし、この曲は、あの特徴的なリズムを伴った現在私たちが「ポロネーズ」と聞いて連想する作風ではありません。

この傾向は実はバロック期の終わりまで見られ、18世紀のJ. S. バッハやその息子 W. フリーデマン・バッハなどの「ポロネーズ」と題される作品の中にも、「これってポロネーズ？」と思うような曲があったりするので。

では、なぜそのような作品も「ポロネーズ」と名付けられていたのでしょうか。

もともと「ポロネーズ」という言葉は、17世紀フランスで「ポーランド風の」と呼ばれたことに由来しています。つまり、ポーランドには各地方で独特の踊りがあるにも関わらず、「ポーランド風」である作品の全てに、「ポロネーズ」という名前が与えられていたのです。そのために、当時「ポロネーズ」と名付けられた作品は、その様式がとても多彩なのです。この器楽作品のポロネーズは、スウェーデンやドイツ、フランスに広まり、そこから再びポーランドに入ってくるという変遷を辿りました。つまり、ポーランド以外の国の作曲家が、単に一つの音楽形式として「ポーランド的」に作った「ポロネーズ」も含まれているのです。その意味で、これらはポーランドの民族性とは深く関わりのないポロネーズと言えるでしょう。

定着から確立へ

では、現在私たちが「ポロネーズ的」と認識している特徴は、いつ、どのようにして確立されたのでしょうか。

古典期に入ると、貴族社会におけるポロネーズ人気に、いよいよ拍車がかかってくるようになります。舞踏会ではメインとなるワルツに並び、入場行進の曲としてポロネーズが愛されるようになりました。

すると、このポロネーズの流行に乗り、多くの作曲家がポロネーズ作品を作り始めるようになったのです。舞踏という実用的な要素とともに、芸術的な要素を帯びたポロネーズは、人々の中に根付いていきました。そして、あの特徴的なリズムや、3拍子、上拍のないフレーズ、リズム型の反復、弱拍にアクセントを持つ女性終止などが様式化されたのです。

生演奏！生対談！！

このように、ほんの少しポロネーズを解体してみただけでも、その奥深さをご理解いただけたのではないのでしょうか。

今回の研究発表会は、演奏も交えたカジュアルな雰囲気で行いたいと思っています。現在のところ、ショパンのポロネーズのピアノ演奏を予定しています。その他にも、磯山雅先生とゼミ生による、バッハのポロネーズをテーマにした対談もあります。もしかすると、なんと舞踏の実演もあるかもしれません。

記念すべきショパン・イヤーに相応しい内容にもなると思いますので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

参考資料

- 田村進『ポーランド音楽史』雄山閣出版、1991(請求記号 C54 353ほか)
クルト・ザックス『世界舞踊史』音楽之友社、1972(請求記号 C13 - 772ほか)
J.G.Goldberg『24 Polonaisen』Schott, 1992(請求記号 G25 820)

展示資料

〈パネル〉

アダム・ベルナルト・ミツキューヴィチ

ショパンと交友関係にあった詩人・ミツキューヴィチ。ポーランド復興にかけるポーランド民族の姿を描いた、映画『パン・タデウシュ物語』の原案となる詩を書いた。

出典:土谷直人著『ポーランド文化史ノート』新読書社、1985(請求記号 J85-300)

18世紀中盤のポーランド共和国国境と、その後のポーランド分割で失った地域を示した地図
18世紀に、3度に渡って行われたポーランド分割での、国土の変遷を表した地図。

出典:ステファン・キェニューヴィチ著;阪東宏訳『歴史家と民族意識;ポーランドの民族的伝統についての省察』未来社、1989(請求記号 J85-299)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

オペラ『エウゲニ・オネーギン』にポロネーズを用いて、効果的な演出を図ったチャイコフスキー。

出典:チャイコフスキー;アッティラ・チャンバイ,ディートマル・ホラント編『エウゲニ・オネーギン』音楽之友社、1988(請求記号 C45-863他)

《エフゲニー・オネーギン》で登場するポロネーズのシーン

第3幕の冒頭。宮廷の舞踏会でポロネーズが踊られている場面。

出典:チャイコフスキー;アッティラ・チャンバイ,ディートマル・ホラント編『エウゲニ・オネーギン』音楽之友社、1988(請求記号 C45-863他)

Polonaise in C major, opus 89, for the piano

ベートーヴェンの書いた唯一のポロネーズ。煌びやかな序奏に、生き生きとしたテーマをもつこの作品は古典期のポロネーズの代表格である。

出典:Beethoven "Polonaise in C major, opus 89, for the piano" New York: International Music Co., 1946(請求記号 G2-711)

「TANIEC POLSKY」と題されたポーランド舞曲を多く含むゲヘマによるリュート・タブラチュア手稿譜(1640年)。4拍子系のあとに3拍子系の「PROPORTIO」がついている。1640年に書かれたとされているパロック調弦のリュートタブラチュアによる手稿譜。フランスで流行っていた舞曲やポーランド舞曲などが収められている。

出典:"Das Lautenbuch der Virginia Renata von Gehema" Leipzig: Zentralantiquariat der Deutschen Demokratischen Republik, 1984(請求記号 H23-652f)

Österreichische Lautenmusik im XVI. Jahrhundert

ポーランド舞曲(Der Polish Tanz)と題された出版楽譜で、おそらく最初と思われる楽譜が収められている。1544年ノイジードラーによるもので、ニュルンベルクで出版された。彼は合計8冊のリュート・タブラチュア集を出版している。

出典:Hans Judenkünig [et al.] und Unika der Wiener Hofbibliothek "Österreichische Lautenmusik im XVI. Jahrhundert" Graz: Akademische Druck- u. Verlagsanstalt, 1959 [1911](請求記号 A4-342)

民衆のポロネーズ

民衆の婚礼の際に演奏され、踊られている様子。

出典:属啓成著『ショパン』音楽之友社、1989(請求記号 C48-276)

フリデリク・フランツィシェク・ショペン(ポーランド名)

その活動により、ポロネーズを世界的に広めたショパン。彼のポロネーズ作品には、独特の勇敢なリズムや劇的で華麗な、でもどこか執念を帯びた響きが見られる。

出典:アラン・ウォーカー編;和田旦訳『ショパン;その人間と音楽』白水社,1968(請求記号 C59-683 他)

ポロネーズの基本ステップ

その特徴にはリズム、3拍子、上拍のないフレーズ、女性終止などがある。

出典:ジョン・ローソン著;松本千代栄校閲;森下はるみ訳『フォークダンス;民族性と舞踊技術』大修館書店,1975(請求記号 C22-861 他)

貴族のポロネーズ

宮廷の儀式で勇壮で華麗な音楽として踊られている様子。

出典:田村進著『ポーランド音楽史』雄山閣出版,1991(請求記号 C54-353 他)

ポーランド民族音楽

地域別にそれぞれ特徴があるポーランドの民族音楽。

出典:田村進著『ポーランド音楽史』雄山閣出版,1991(請求記号 C54-353 他)

宮廷舞踏会

1862年3月16日土曜日に発行された雑誌『リリュストラシオン』第994巻のドイツに関する記事の挿絵。プロイセン王ヴィルヘルム1世がポロネーズで幕を開けたベルリン歌劇場舞踏会の様子。

出典:ヴァルター・ザルメン著『19世紀の舞踏』音楽之友社,1993(請求記号 C58-383 他)

《書籍》

クルト・ザックス著;小倉重夫訳『世界舞踊史』

音楽之友社,1972 請求記号 C13-773 他

世界の様々な舞踊について詳しく解説されている。

田村進著『ポーランド音楽史』

雄山閣出版,1991 請求記号 C54-353 他

ポーランドの音楽の歴史が詳細に記された一冊。

服部龍太郎著『ベートーヴェンピアノ全曲研究』

淡海堂出版,1944 請求記号 C56-298 他

ベートーヴェンの全ピアノ作品の解説が載っている。作品によっては作曲背景から、構造分析、技法の特色など幅広い視点から注釈が加えられている。

ステファン・キエニエーヴィチ編;加藤一夫,水島孝生共訳『ポーランド史』

恒文社,1986 請求記号 J57-750/(1)

ポーランド王国成立から18世紀の啓蒙主義時代までの国家についての著書。主に政治や近隣諸国からの文化の流入などについて詳しく書かれている。

ジェラルド・エーブラハム著;小沼ますみ訳『ショパンの様式』

音楽之友社,1979 請求記号 C28-938 他

ショパンの音楽について詳しく解説している。

属啓成著『ショパン 生涯篇』

音楽之友社,1989 請求記号 C48-276

出生から、ワルシャワ時代、パリ時代、晩年に渡るまでのショパンの生涯と、作品ごとの解説がなされている。

音楽之友社編『ショパン』

音楽之友社,1993(作曲家別名曲解説ライブラリー;4) 請求記号 C56-746 他

ショパンの生涯や、各作品ごとの解説がなされている。ショパン作品と、ポーランドの民族性についても触れられている。

チャイコフスキー；アッティラ・チャンパイ，ディートマル・ホラント編
『エウゲニ・オネーギン』

音楽之友社，1988 (名作オペラボックス；25) 請求記号 C45-863 他
作品のあらすじや様式、成立背景などが述べられた一冊。

中山義夫著『世界の民踊；フォークダンス・ポピュラーダンス 115 曲集』

鶴書房，1955 請求記号 C54-814

クヤヴィアクの踊り方についての記述がある。

ジョーン・ローソン著；松本千代栄校閲；森下はるみ訳『フォークダンス；民族性と舞踊技術』

大修館書店，1975 (現代舞踊学双書；5) 請求記号 C22-861 他

ポーランドの踊りのステップが紹介されている。

土谷直人著『ポーランド文化史ノート』

新読書社，1985 請求記号 J85-300

ポーランドの文化人たちそれぞれの生涯や活動と、民族性の関連について述べられた著書。

ステファン・キェニエーヴィチ著；阪東宏訳

『歴史家と民族意識；ポーランドの民族的伝統についての省察』

未来社，1989 請求記号 J85-299

国家の滅亡から、独立を目指したポーランド民族の意識形成の過程や、国家の移り変わりについて詳細に述べられている。

《楽譜》

Johann Sebastian Bach ; herausgegeben von Alfred Durr

"Die sechs franzosichen Suiten ; BWV 812-817"

Zen-on Music, 1990 (Barenreiter Urtext Series ; 51) 請求記号 G22-799 他

フランス風の組曲に習って6つの舞曲から構成される。この中のポロネーズは、まだ特有のポロネーズらしいリズムは顕著ではない。

[Johann Christian Bach] ; herausgegeben von Susanne Storal "Kleine Klavierstücke"

Graz, Austria : Akademische Druck-u. Verlagsanstalt, 1981 (Johann Christian Bach, seine bisher nicht im

Neudruck vorliegenden Klavierwerke ; Heft 2) 請求記号 G10-206

J.S.Bachの息子であるヨハン・クリスチャン・バッハ(1735-1782)のクラビア集の中にポロネーズと題された小曲が収められている。

W. Friedemann Bach "Polonaise no. 7 in E for piano"

London : Augener, [19--] 請求記号 G2-073

J.S.Bachの息子であるW.フリーデマン・バッハ(1710-1784)のポロネーズ7番。

Johann Philipp Kirnberger ; herausgegeben von Kurt Herrmann

"Tanzstücke ; für Klavier (auch für Cembalo)"

Mainz : B. Schott's Söhne, c1935 請求記号 G7-025

ドイツの理論家、作曲家であるキルンベルガー(1721-1783)のクラヴィア集で、その中にポロネーズがある。

Johann Philipp Kirnberger ; herausgegeben von Ulrich Mahlert

"Recueil d'airs de danse caractéristiques"

Wiesbaden : Breitkopf & Härtel, c1995 請求記号 G28-183

キルンベルガー(1721-1783)の27の舞曲の小曲集。その中の一曲にポロネーズがある。

Michał Kleofas Ogiński ; do druku przygotował Adam Rieger

"Polonez a-moll ; Pożegnanie ojczyzny"

Kraków : PWM Edition, c1956 1994 printing (Miniatury fortepianowe ; 1) 請求記号 G25-980

ポーランド人であるオギンスキー(1765 - 1833)は、ショパンに大きな影響を与えた。

Johann Gottlieb Goldberg ; herausgegeben von Christoph Wolff
"24 Polonaisen ; in allen Tonarten"

Mainz ; Tokyo : Schott, c1992 (Journal für das Pianoforte ; Heft 13) 請求記号 G25-820

「J.S.Bachの書いたゴルトベルク変奏曲を弾いた」と言われているあのゴルトベルク(1727-1756)が、24すべての調で書き表したポロネーズの小曲集。

《録音資料》

Clavichord recital / Ritter ... [et al.]

[Tokyo] : Philips, 2007, p1989 請求記号 XD59867

チェンバロ演奏 Gustav Leonhardt

W.フリーデマン・バッハ(J.S.バッハの息子)のポロネーズが数曲収められている。

Orchestral suite no. 2 in B minor, BWV. 1067... / J.S. Bach

[Tokyo] : London, 1989, p1975 請求記号 XD24358

J.S.バッハの管弦楽組曲第2番の中にポロネーズが1曲収録されている。

Klavierbüchlein für Anna Magdalena Bach II ; 1725

Yokohama-shi, Kanagawa : Meister Music, 2000 請求記号 XD44813-44814

Ph.E.Bachのポロネーズが数曲収められている。

Polonaise ; complete / Chopin

[Tokyo] : Victor, 1998 請求記号 XD39320-39321

Dang Thai Son, piano

ショパンのポロネーズを全曲収録している。

Halka / Stanislaw Moniuszko

Osnabrück, West Germany : CPO, p1987 請求記号 XD34811-34812

Barbara Zagórzanka, soprano ; Ryszarda Racewicz, mezzo-soprano ; Wiesław Ochman, tenor ; Andrzej Hiolski, baritone ; Jerzy Ostapiuk, bass ; supporting soloists ; Chor und Orchester des Teatr Wielki (Warschau) ; Robert Satanowski, conductor

モニューシュコのオペラ。楽曲の中にポロネーズが使われている。

Piano music.. Vol. 2 / Weber

[S.l.] : Naxos ; Unterhaching, Munich : Distribution, MVD Music and Video Distribution, p1994 請求記号 XD37810

Alexander Paley, piano

ショパンの初期のポロネーズに強い影響を与えたとされる、ウェーバー作曲《グランド・ポロネーズ》が収録されている。

Alla polacca ; Chopin et l'école polonaise de piano / Chopin ... [et al.]

[France] : Mandala, [1999?] 請求記号 XD45485

Jean-Pierre Armengaud, piano

ショパンに影響を与えたとされる、シマノフスカとオギンスキー作曲のポロネーズが収められている。

Treasury of harpsichord music ; Dances of ancient Poland / Wanda Landowska

[Hong Kong] : Naxos Historical, p2005 請求記号 XD56949

ポーランドの作曲家カトーやオギンスキーのポロネーズ、フランスのラモーやクーブランによるポーランド風エア、そしてポーランドに伝わるポロネーズなどを、20世紀半ばに活躍したポーランドのチェンバリストが弾いている。

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2010/11/15 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 二塚恵里・撰正弘